⑶　地域の特性に応じた柔軟な整備

個性と活力のある豊かな農村の実現に向けた地域づくりに当たっては、産業政策と地域政策の双方を実現する視点に立ち、地域の特性を最大限に活かした柔軟な整備を図る必要がある。平地から山間に至る多様な地域をひとくくりに扱うことはできない。画一的な事業の運営によることなく、営農条件や労働条件、資源の賦存状況等を考慮し、地域における農業・農村の将来方向を十分に見極めた上で地元のニーズや負担能力に応じた整備水準を決定するなど、効果的かつ弾力的な事業の在り方を模索することが重要である。

とりわけ、国土保全といった公益的な機能の発揮の面で重要な位置付けを有している中山間地域においては、農地の傾斜等の要因もあり、規模拡大による生産性向上を図ることが容易でない場合がある。このような地域では、等高線に沿って区画を整備し、上下の水田の間の法面を小さくすることによって農作業の安全性向上や除草等に係る管理労力の削減を図るといった工夫が考えられる。また、水田を畑地化して立地条件を活かした新規作物の導入や地域特産物の生産を図り、それらの加工・販売を通じた高付加価値化を促すことも考えられる。

さらに、耕作の放棄により荒廃が進む傾斜地では、飼料作物の生産と放牧利用を組み合わせた粗飼料自給型の畜産振興を目指すことも有用である。これにより、家畜の舌刈り(※19)能力を活用した除草に係る管理労力の軽減を図りつつ食料自給率・食料自給力の向上が可能となるとともに、鳥獣害被害の防止や美しい景観の維持にも寄与することができる。

樹園地では、競争力ある品種への改植に併せてマルドリ栽培(※20)を導入するなど、営農の効率化や高機能化を促すことが考えられる。また、農薬を使用しない環境に優しい農業を実践するため、傾斜のある畑地を均平化し、太陽熱と畑地かんがいを用いて広域的に土壌還元消毒(※21)に取り組むことも有効である。

このほか、整備構想を立てるに当たり、あるべき土地利用の姿を話し合うことも重要である。例えば、荒廃農地の増加(※22)や地域内の担い手の確保が困難になることが懸念される里山地域において、地域住民自らが土地利用構想を策定し、集落営農や地域外からの農業参入を考慮したエリアのほか、景観に配慮した粗放的な農地、生物多様性の維持を目指した農地、林地化による他業種の創出を図る農地などの区分を行った上で地域資源の維持・継承に取り組んでいる地域がある。こうした取組を通じ、新規就農を考える若者を受け入れる体制を整えることもできる。また、荘園時代の田園風景を将来に残すため、直線的な畦畔(※23)を除去し、周辺景観に調和した曲線状の畦畔を残すなど、地域の特性を活かした取組を展開している地域もある。

このように、地域の特性に応じた柔軟できめ細やかな整備により、地域の創意工夫が発揮されるような取組を支援することが重要である。

第３　政策課題を達成するための目標と具体の施策

１　施策の枠組み

目指すべき農村の実現に向けて土地改良事業を活用した基本戦略に即しつつ、事業を計画的かつ効果的に実施するため、第１表のとおり、３つの政策課題に対応した６つの政策目標を定め、その達成に向けて重点的に取り組むべき具体の施策を整理する。

なお、第２で述べたとおり、個性と活力のある豊かな農村を実現するには、土地改良事業と様々な取組を組み合わせて実施することが有効なため、本計画においては、土地改良事業を基本としつつ、関連する取組も含めて施策と呼ぶこととする。

（第１表）施策の枠組み

政策課題	政策目標	施策
政策課題Ⅰ 「豊かで競争力ある農業」	政策目標１ 産地収益力の向上	⑴　農業生産の拡大・多様化による収益の増大 ⑵　６次産業化等による雇用と所得の創出
	政策目標２ 担い手の体質強化	⑶　農地の大区画化等や省力化技術の導入による生産コストの削減 ⑷　担い手への農地の集積・集約化の加速化 ⑸　農業経営の法人化の促進
政策課題Ⅱ 「美しく活力ある農村」	政策目標３ 農村協働力と美しい農村の再生・創造	⑹　農村協働力を活かした地域資源の保全管理体制の強化 ⑺　美しい農村環境の創造を通じた地域づくり
	政策目標４ 快適で豊かな資源循環型社会の構築	⑻　農村の生活基盤の効率的な保全管理 ⑼　小水力発電の導入等の再生可能エネルギーの拡大
政策課題Ⅲ 「強くてしなやかな農業・農村」	政策目標５ 老朽化や災害リスクに対応した農業水利施設の戦略的な保全管理と機能強化	⑽　農業水利施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減 ⑾　農業水利施設の機能強化による災害リスクの軽減
	政策目標６ 災害に対する地域の防災・減災力の強化	⑿　農村協働力を活かした防災・減災力の強化

政策課題Ⅰ「豊かで競争力ある農業」に関しては、自立した農業経営の実現と産地の収益力向上を図るため、本計画期間の重要業績指標（ＫＰＩ：Key Performance Indicator）等を明確にしつつ進捗の管理に努め、その達成に必要な施策を集中的に講ずる。

政策課題Ⅱ「美しく活力ある農村」に関しては、地域資源の保全管理の質と持続性の向上と快適で豊かな地域社会の構築を図るため、土地改良事業を基本としつつ、多面的機能支払制度や農村の生活基盤の保全管理を含む施策のＫＰＩ等を示し、政策目標の効果的な達成を目指す。

政策課題Ⅲ「強くてしなやかな農業・農村」に関しては、産業政策と地域政策の土台となる基盤の将来にわたる機能の継承と地域防災・減災力の向上を図るため、本計画期間のＫＰＩ等を明確にしつつ進捗の管理に努め、その達成に必要な施策を効率的に講ずる。

これら３つの政策課題に位置付けられた施策を、各地域がバランス良く実施することによって相乗的に効果を発揮させ、地域の特性に応じた持続的発展の実現を目指す。

２　成果の着実な達成に向けた土地改良事業の重点的・効果的な実施

事業の実施に当たっては、厳しい財政事情の下で成果を着実に達成する観点から、これまで以上に重点的・効果的に推進する必要がある。このため、米中心から高収益作物を中心とした営農体系への転換や生産コストの削減等、明確な目標と意欲を持ってチャレンジする地域に対して事業を重点化するとともに、ハード・ソフトの対策を適切に組み合わせつつ施策を効果的に講ずる。

また、最小かつ最適な整備で最大の効果を生み出す観点から、既存の社会資本を活用しつつ新たな価値を付加することにより、将来の農業・農村を見据えたストック効果を維持・向上させる視点が重要である。このため、農業水利施設の徹底した長寿命化とライフサイクルコストの低減を図る戦略的な保全管理、畦畔除去による大区画化など安価な簡易整備、畑地における末端かんがい施設の導入を推進するとともに、農業・農村の構造変化に応じた施設の統合・廃止や小水力発電の導入を促進し、事業コストと維持管理費の縮減に取り組む。

なお、こうした取組を着実に推進するため、時代の要請や技術の進展等に応じた国の計画設計基準等の見直しを図るとともに、施策の進捗を客観的に評価できるよう、土地改良事業の実施を通じた成果の定量的な把握手法等についても検討を進める。